

憲法が輝く学校と社会のために力を合わせましょう

「あなたがここにいてほしい」－英語のメッセージが付けられた折り鶴が、国連の日本政府代表の席に置かれました。唯一の戦争被爆国である日本の政府は、今年 9 月に採択された核兵器禁止条約の交渉のテーブルにつこうとはしませんでした。私たちの国は、核廃絶の世界的な流れとは反対の方向を向いています。北朝鮮のミサイル発射を知らせる Jアラートが鳴り響き、遙か宇宙空間を飛んでいったミサイルに対して、脅威をあおるような報道がされ、それを素直に受け取った子どもたちは、不安な気持ちのまま過ごしていることでしょう。

日本の首相はこれを「国難」と表現し、「国難突破解散」などと衆議院選挙の争点にまできました。その結果、必ずしも民意を反映しない小選挙区制のマジックによって、自民党は全議席の 61% を獲得しました。今回の選挙結果を経てもなお、与党は 3 分の 2 の議席を確保しており、今すぐにでも改憲の発議に踏み切るだけの勢力を保っています。

全道の教職員の皆さん

子どもの幸せを考えると、誰もが平和な世界を願うはずで、8 時間働けば安心して暮らせる仕事があり、貧困に苦しめられることなく、若者が夢を持って自分の人生を生き、たとえ困難な状況に陥っても社会のセーフティネットによって守られる社会。私たちの社会は、この理想の実現にはほど遠く、依然として厳しい状況が続いています。しかし一方で、私たちは戦後 70 年間あまり、ただの一度も戦争をしていません。「平和」は理想の社会の前提条件です。子どもたちのため、この平和を守り、憲法上のあらゆる権利を実現して、一人ひとりが住みやすい社会に発展させるため、一緒にとりくんでいきましょう。

全道の教職員の皆さん

教職員の多忙化は深刻です。私たちはまず働き方を見直し、まともな暮らしを取り戻さなくてはなりません。「全国過労死を考える家族の会」の工藤祥子さんは、夫の過労死について語り、教員の働き方の見直しは、命にかかわる急務であることを強く訴えました。「2017 年教育のつどい」の全体集会の中で、石川康宏さん（神戸女学院大）は「教師は目の前の生徒のために 7 割、社会のために 3 割の力を使うべきです」と話しました。教職員は現在、10 割の力を注ぎ込んでも仕事が回らないほどの異常な働き方であり、こうした働き方を改善しないかぎり、思考力を失い、結果として「物言わぬ教師」となっていくことは、ある意味必然でもあります。

今、部活動問題をきっかけに、社会全体が教員の働き方に注目し始めています。また、日本の教育は保護者の経済的な負担によるところが大きく、子どもの生活実態調査が描き出した貧困の実態ともあいまって、国はもっと教育にお金を使うべきだという声があがっています。私たち道高教組が長年求めてきたものに、やっと世論が追いついてきた今こそ、国や道、社会全体に向かって大きな声をあげていきましょう。

全道の教職員の皆さん

改憲勢力が国会の 3 分の 2 を占めている今、私たち教職員は何ができるでしょうか。子どもを中心にこの社会を考えると、平和で民主的な社会を願い、その実現のために心を馳せるはずで、人類の叡智ともいえる憲法 9 条を守り、唯一の戦争被爆国として核廃絶に寄与するため、「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンのもと、市民と繋がりながら「憲法 3000 万署名」や「ヒバクシャ国際署名」に一緒にとりくみましょう。

北海道では市民と野党が共闘し、それが議席の獲得に繋がることが明らかになりました。高教組の青年教職員は、自分たちの言葉で、平和の意味や自分たちがめざす教育について語り始めています。厳しい現状は続きますが、確実に新しい風は吹き始めています。慌ただしい毎日の中でいったん立ち止まり、子どものために何ができるのか、今一度考えてみましょう。そして、青年教職員をはじめ未組織の先生方が私たちの仲間となり、大きなうねりとなって、一緒に行動してくれることを心から期待しています。